

審議会の今後の進め方（案）

●令和2年度に向けて（令和元年度末までの目標）

○植生管理

令和元年度実施調査等

樹木調書（平成23年度実施の調査図面の樹木存在確認、幹周計測調査）

- ・令和元年12月に、高橋家屋敷林保存会（ボランティア団体）と調査実施。
- ・ボランティア団体等が将来にわたり継続的に実施できる基礎づくりを行う。
- ・今後、近隣の屋敷林視察を通じ、屋敷林と母屋の関係性を整理する。
また、可能であれば、この地域における特徴（北風から母屋を守るなど）に着目し、屋敷林の必要性やあり方のイメージを整理する。

【今後の課題】

■スケジュールの整理

（当初予定の調査をどのように整理するかの確認）

■保全活用計画における屋敷林のイメージの整理（原型 or 未来形）

○母屋・蔵

- ・武蔵野大学院生の研究発表（母屋の活用方法の提案）や測量成果を、今後のフォーラム等で発表し、建物の活用についてPRを行う。
- ・近隣の屋敷林視察を通じ、屋敷林にある母屋ならではの特徴等を整理する。

【今後の課題】

■具体的な活動内容の整理をしていく

○歴史・文化

- ・天神社（北町6-7）の総合調査を実施している中で、特別緑地保全地区（屋敷林）の建物を含めた文化財的位置づけの整理

【今後の課題】

■社会教育課とのさらなる連携（イベント等）

■特緑又は保谷駅北口地域の文化財（的）としての位置づけ

○雨水浸透調査

- ・雨水浸透実験を通じ、特緑と他の測定地（福社会館）との比較検証の整理。
- ・温湿度計による実験を通じ、特緑と他の測定地（福社会館）との比較検証の整理
比較検証を通じて、屋敷林の持つ環境面での優位性を把握し、屋敷林が自然環境に貢献しているなどの実験結果を整理する。

【今後の課題】

■令和2年度におけるイベント化の検討（市内小中学校との連携等）

○人材育成

- ・藍のイベント及び紅葉鑑賞会を通じて、アンケート調査の実施。
- ・令和2年3月実施予定の観桜会において、ワークショップを開催し、今後の特緑の活用や、ボランティアによる維持管理（保全）等を話し合い、保全活用に向けたイメージの共有やボランティアへの参加の気運醸成を図る。

【今後の課題】

■令和2年度の具体的な取組（イベント・ワークショップ・組織づくりの仕掛け）